

# 経済・経営学会研究会のお知らせ

日時：10月20日（木）14時-17時

場所：10号館3階 第二大会議室

## ジャン・バルベラック『娯楽論』研究 —労働・余暇・自己愛—

門 亜樹子 氏（経済学部准教授）

フランス出身の知識人ジャン・バルベラック(Jean Barbeyrac, 1674-1744)は自然法学の著作の仏訳者として知られ、彼の仏訳は古典派経済学の父アダム・スミスらスコットランド啓蒙知識人の自然法学受容に影響を与えたと考えられる。本報告では、バルベラックの著書『娯楽論』(1709年)より、娯楽(jeu)を労働の余暇として正当化する論理と、新しい「自己愛」観について紹介する。



## 集中か分散か —19世紀末から20世紀初頭の英国のチャリティ 団体における救済をめぐる議論を中心に—

赤木 誠 氏（経済学部准教授）

本報告では、19世紀末から20世紀初頭の英国のチャリティ団体において議論された効率かつ効果的な救済の在り方について検討する。これまでの研究では、首都ロンドンに関するものが多く、地方都市に関するものは数少ない。本研究では、地方都市の中でも独自の路線を歩んだリヴァプールの事例を中心に、一団体による集中的な救済と多数の団体による分散的な救済をめぐるチャリティ団体における議論の経緯を明らかにしたい。